JAKEHS2017年度第 2 回東モイム

日時:2017.8.27(日)10:00～13:00　於:株式会社インジェスター会議室(市ヶ谷)

議題:

1. 持ち寄り半ネタコーナー(全員)
2. 卒業生は今
　　鶴総→昭和女子大学の篠原茉優(まひろ)さん
3. 杉並総合中韓必修化について-武井一先生
4.「外国語教育強化地域拠点事業における単元指導案づくり」 ー遠藤正承先生
5. 全国大会について

参加者(9名)

石黒みのり　青梅総合高等学校他7校
遠藤正承　横浜翠嵐高校定時制
呉文淑(オ・ムンスク)　啓明学園高等学校他
篠原茉優(まひろ)　昭和女子大学国際学科1年(山下先生の鶴見総合高校教え子)
武井一　日比谷高校他
田附和久　神田女学園高等学校(在日韓国 YMCA)
崔英善(チェ・ヨンソン)　相模原総合高校他3校
鄭賢熙(チョン・ヒョンヒ)　横浜緑園高校他
山下誠　神奈川県立大師高校

1. 持ち寄りハンネタコーナー
各自、テスト問題や授業プリント、 成果物などをもちよりミニ報告(1人 10 分から 15 分)

①呉文淑先生
口頭テストについて(啓明は期末のみ)　今年は入門が25名
留学生と2人で口頭テスト(+書き取り)を行った
口頭テスト質問用紙から生徒が選択して受け答えさせる
Q&A
チョン先生

自分が質問を選べるのか？→内容は伏せて番号で選ばせる
生徒が質問用紙を持ってるのか？→質問者（先生）が持っている、4種類
何が出てくるかは分からないようになっている
生徒自身が逆に質問するってことはないのか→ない
山下先生　範囲は？→「好きやねんハングル」入門1は濃音まで
　　読みの録音はあるのか？→ある（呉先生の録音機器で聞く）
武井先生　毎週2時間？→外国語選択、毎週2時間の金曜日
田附先生　正答率は？→できる子たちは80～90％、授業で習った順番で
呉先生　授業で子音や母音の書き取りをやるが、果たして意味があるのか？
　　→チョン先生　初級者には難しいから最初はそれぐらいでいいのでは
山下先生　こういうのは聞き取れるの？
　　→篠原さん　会話になると激音や濃音の区別は難しい
　　高校でこのような区別を理解できるような授業をしてほしいのか？
　　→篠原さん　今後も学習する意欲のある生徒であればいいのではないか
崔先生　やりすぎると生徒から質問が来る、意識させるぐらいでいいのでは
武井先生　一緒の授業でやっていくことがひとつの課題
田附先生　18歳の生徒だとなかなか難しい部分があるのでは
チョン先生　発音は早い段階で固まってしまうので、早めにやった方がいい
　　でもそこに重点を置いてひたすらやるのは違うのでは
　　できる子には個人指導、できない子には別にしなくてもよい
山下先生　先生が上手ければ真似るのは生徒はものすごく上手い、理屈は後から
呉先生　コツを教えてあげればいい

②石黒みのり先生
クイズでビンゴ
青梅総合高校他で実施
・Hana 出版の冊子の中のクイズ100個から抜粋
・二人ペアを組み25マスを作成・配布―ビンゴかクイズ
・事前学習あるか→ない
・目的：韓国の文化や理解を図る
・盛り上がる

③崔英善先生
・相模原の高校 2 校担当。
・韓国語を一つのツールとしてグローバル社会を生き抜く力を身に着けてほしいという思い。
・定期試験にプレゼンテーションを取り入れる試みを続けている。
・発表と評価の共有（発表を録画したものを見ながらフィードバック）
・白帝社のテキストから、『チョンゲグリ』を使って
・授業でも、海外で働く女性としての経験（失敗も含めて）を伝えるよう意識している。生徒から相談を受けることもある。
・卒業生が女優になった。小栗旬の事務所に所属。韓国語の日常会話を習得するように会社から言われて、夏休みに特別レッスン。
・橋本高校の卒業生は、卒業後も引き続き学びを続けている人が多い。
→（鄭）秦野総合の生徒の中にも芸能事務所への所属を希望している生徒がいる。
・（鄭）韓国の生徒は教師の個人的なことも授業中に質問することが多い。教師と生徒の距離、日本と韓国とで違う？
→（篠原）大学の韓国語ネイティブ教師は、自分の話もたくさんする。自由なところと厳しいところをはっきり区別する印象がある。
→（山下）韓国のクラスは一つのチームになって教師と会話しようとするが、日本の生徒は絶対にそうならない。チームを作れない日本の文化。韓国の生徒たちはノリがいい。

④田附先生
・2コマー高2、3
・1 限目：テキスト
2限目：動画・新聞・歌などの応用をきかせた学習
　　インプット重視のための KBS 番組を取り入れる

⑤武井先生
・トータル：27 時間
・免許更新での感想
→学校・地域によって方針・取り組みの気合、授業の密度がことわるのを感じる
→都立・私立、東京都・神奈川県
・学校によって狙いや生徒のレベルによって内容が異なるため、準備が大変
→杉並総合の必須化

→日比谷：生徒の親が韓国舞踊の先生―レクチャー

⑥鄭賢熙先生
世宗学堂の例
・インタビュ用シートを練習―名前、住まい、電話番号、好き・いやなことなど
・1 時間半のうち確認が困難なので最後の授業で質問シートを使用し確認
・最終的にはビデオで記録（その実例を紹介）
・欠席者対応：自己紹介
・発表は用紙を見ないのか―暗唱させるので見ない。
・伝言ゲーム、「라고 해요 」を使用（教科書で習った文法）
学校
・世宗学堂の例まではできない
・文字学習：食堂のメニューを読む事前学習－ペアの注文の練習－テストで読めているかを確認
・1 学期：「好きやねん」の 1 課 2 課終わったら－自己紹介のビデオを作る
報告
ダンスダンス
充実していた。病気の子やトレンゼンスターっぽい子がいて危惧したが韓国でも無事に迎え入れられた。

2. 卒業生は今
鶴見総合高校卒業生　篠原茉優さん
・昭和女子大学国際学科。来年夏からソウル女子大学に留学する予定で、韓国語の勉強を進めている。
・韓国語を初めて聞いたのは中学生のとき。もともと K-POP が好きだった。
・高 2 のとき、来日した安山高校の生徒と交流。日韓の難しい関係も知り、嫌がられたらどうしようかと心配したが、まったく問題なく楽しく交流ができた。
・将来も続けてそのような交流をしたいと思い、山下先生に進路相談。留学ができて、韓国語を集中的に学べ、それだけでなく異文化交流について学べる場所をさがし、国際学科に入学。
・高校生のとき、安山の友人の家庭を訪問したのも、続けて勉強したいと思うきっかけになった。
・韓国語をやる土台ができたのが高校生活だったと思っています。

・(山下)高 2 から担任。韓流少女だった。専門学校ではもったいないと思い、高 2 の夏に大学進学を薦めた。高 2 の夏はまだモチベーションがかたまっていなかったが、安山の生徒との交流を通して、韓国語を学ぼうという思いが強くなった。AO 入試で合格。
・大学は、週 4 回の授業を 4 人(全員韓国語ネイティブ。3 名が女性)の講師が担当(後期は週 6 コマ)。1 週間に 3 課ずつ進む。韓国の大学に留学するなら、このペースで勉強しないといけないと言われている。一人の先生は、韓国語だけで授業を進めている(質問した時だけ、日本語で説明してくれる)。韓国では自分から質問しないといけないのだということを、授業の進め方を通して教えてくれている。韓国語を学びながら、勉強に取り組む姿勢も教えてもらっている。
・一般教養は、異文化コミュニケーション等の授業を履修。比較文化のフィールドワーク等の授業も興味深く、大学に進学できてよかったと感じている。
・韓国社会研究の授業もある。4 人でのグループワーク。グループ毎に、テーマを決め、パワポで発表。これも韓国留学の準備。きちんと発表ができるように。発表については、鶴見総合での発表の授業の経験が役に立っている。そのおかげで授業についていくことができている。
・テキスト『話そう韓国語』(6 月までで終了)、2 冊目『もっと話そう韓国語』。後期は梨花 3-2 まで終わる予定。春には淑明女子大に通う予定。留学するまでに TOPIK4 級に受からないといけない。
・後期に落ちこぼれないように、自主的にスタディグループを作って、夏休みも集まって勉強している。
・留学先は、ソウル女子大(ダブルディグリーで両方卒業できる)、他には淑明女子大等。
・5 年で卒業。韓国の大学の卒業単位も取得する。
・来年夏から留学予定。
・卒業後は、韓国語を使った仕事がしたい。まだ具体的には見えていないが、日本語を教える仕事や韓国語を教える仕事に興味を持っている。
・同級生(30 名)は、みんな韓国語好き、K-POP が好きな学生。全員ができるようになることが求められている。母音の試験は、全員が満点を取るまで続けられた。
・昭和女子大に進学できてよかった。鶴見総合を卒業できてよかった。山下先生に出会えてよかった。
・AO 入試は、やる気重視。英語、小論文、面接。面接では、2 年間韓国語を学んだこと、交流の経験についてアピール。AO の前にハン検 3 級には合格しておいた。口頭試験では、EU のこと、高齢化社会について、準備して臨んだ。小論文の課題は、環境問題。
→(山下)単なる韓流好きでは受かることができない。社会への関心、論理的な作文力が求め

られる。

3. 杉並総合高校(20 人 2 クラス　1 単位)の中韓必修化
–モチベーションが少ない子もたくさんいる。(対策必要)
-モチベーションが高い割合　20, 30%
–学習障害を持つ子に対する対策必要
-文字(平音-パッチムの順)
-教科書(チャレンジ韓国語)の問題
-目標(自己紹介ができるように)に合わない
-会話中心にはよく合わない、副教材の準備の必要
-シラバスの再作成
-文化を紹介する適切なテキストはない
-他の外国語の位置づけの問題

4.「外国語教育強化地域拠点事業における単元指導案づくり」 ー遠藤先生
プロント参考
4機能5領域　アクティブラーニング

5. 全国大会に向けて

全国大会の内容
・「杉並総合中韓必修化について」
・「年間シラバスー目標設定のあり方」
・「外国語教育強化地域拠点事業における単元指導案づくり」
・「韓日研」大会優勝者の発表

①中身について

一日目
1. 杉並総合中韓必修化
2. 遠藤先生の指導案報告
学習内容到達目標をどう設定するか、という共通点

大阪→キャンドゥベース、作文ではなく本当のシラバスづくりをテーマに

鄭さん、崔さんがやっていることを実践報告として出した方がいい。
遠藤先生のものはプラン、鄭さん、崔さんのは実践、話が具体的になる。

報告3本
鄭さん→友達紹介（キャンドゥリストを明確にして実際の授業）
崔さん→一日の行動紹介

各校のシラバスをまとめた資料集を作る（呉）

韓日研（クォン・ガヨンさん）の授業発表

②予算、役割分担など
　-予算案（ファイル）提示
　-役割分担
　　内容：山下、田附
　　予算：呉文淑
　　会計：梁仁順（他　未定）
　　渉外：呉文淑
　　記録：石黒、武井
　　懇親会、茶菓など：齋藤、遠藤

　次回モイムは全国研修の準備のため文化院の閔炳ウクさんを交え、韓国文化院で10月末頃開催。